

(国) 福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科 (喜多方高校出身)

(※2022年度入学者から新カリキュラムとなります)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

入学当初から考えていました。大学受験に失敗し浪人するか悩んでいた時に、高校の先生に聖母短大を紹介していただきました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期からキャリアデザインの授業で大学研究、小論文、志願理由書、面接練習を行いました。英語は週に2回、編入希望者向けの英語の授業があり、そこで過去問を解いていました。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

英語は1年生の夏休み頃から、個人的に過去問を解き、先生に添削をお願いしていました。小論文は本格的に始めたのが2年生の夏休みで、遅かったと後悔しています。何から始めれば良いのかわからないと思いますが、まずは新聞や本を読むことから始めるのが良いと思います。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

英語力を上げたことです。短大入学時から少なくとも1日1分は英語に触れるようにしました。1年生の後期から本格的に過去問を解き始め、入手した過去問はすべて3回以上は繰り返し解きました。また、コロナ禍で地域活動が難しかったため、オンラインのワークショップに参加し他の受験生との差別化を図りました。

Q. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

聖母では幅広く学ぶことができ、現代社会を複数の視点から見つめ直すことができたと思います。この力は小論文を書く際にも非常に役に立ちました。

Q. 先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

「自分の言葉は自分が1番聞いている」という言葉です。普段から「自分は絶対に合格する」と口に出すことで、ポジティブな気持ちで自信をもって受験に臨むことができました。

Q. ①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①切り替えて頑張ろうと決意しました。

②後悔しないように毎日コツコツ頑張ろうと思っていました。

③全力を出し切ろうと思っていました。

④「自分でもやればできる」と自信ができました。

Q. これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

編入試験を受けるにあたって、自分の学びたいことを明確にする必要があります。自分が夢中になって「知りたい」と思えることに会うのは容易ではありません。しかし、それを聖母短大で学ぶ中で確立していくことができれば、編入先での学びがより豊かなものになると思います。